

事業名称	『村の記憶』を書き継ぐ
団体名・代表者	香寺歴史研究会
協働の相手方	企画政策推進室・香寺町域内各自治会・市立香寺中学校

目的	町民の書いた『香寺町史 地域編』を書き続けることで、地域の歴史遺産を再発見し、地域づくりに活かしていきたい。書き続けるためにはその担い手を育てることが必要である。書き継ぐ会を続けることで、その一端を担いたいと考えている。また、書くだけでなく、次の世代に直接話すことで、ムラの歴史を伝えたいと地域の中学校と連携を図っている。書き手であり、語り部でもあることで私たち世代に課せられた役割を果たしていきたい。
内容	1. 『村の記憶』を書き継ぐ会を継続し、『新・ムラの生活史 II』の編集刊行。 2. 全町内の山の地名を調査し、かつての山と暮らしの関わりを記憶する。 3. 中学生への出前授業（「地域の歴史と暮らし」について）を行う。
事業経過	書き継ぐ会は4回の例会を開いて、各自レポートを作成し、その成果の一端を活動報告会（フォーラム）を開いて町民に発表する。一方、歴史研究会では「山と暮らし」調査を行うとともに、中学生へアンケートを行い、その結果をもとに中学生に村の暮らしについて話す。
事業の効果	1. 活動報告会を開いて、町民に広く『村の記憶』を書き続けることの意義を伝えることができたこと。 2. 中学生に直接村の暮らしと地域の歴史を話すことで、地域への関心を高めることができたこと。 3. 山と暮らし調査により、忘れられようとしている山と暮らしについて記録ができたこと。
今後の展望	書き継ぐ会の活動の意義が認められ、各自治会で大字誌の編纂が行われることに期待しており、今後とも働きかけていきたい。中学校の積極的な協力が得られるようになり、さらに協働して未来を支える中学生が地域への関心を高めてくれるような活動をしていきたい。

【実施団体の事業総括・感想等】

<p>住民が書いた町史『村の記憶』を書き継ぐ試みが形となり、『新・ムラの生活史 II』が発行できたこと。次いで参加者の活動が力となって、大字誌を編纂する自治会の動きが具体化し、今年、犬飼・中仁野・行重で編纂委員会が発足したことで一定の成果が得られたと感じることができた。一方で、次の世代に伝える活動として、中学生に授業をする機会が与えられ、自分でも地域の事を調べてみたいと思ったという感想を聞くことが出来て、大きな励みとなった。</p>
--

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

<p>【企画政策推進室】 地域の住民が地域の歴史だけでなく、その生活や文化を書き、伝えていくという活動は、地域への関心を高め、地域資源を保存伝承していく上でも大変有意義な活動である。その活動の中で、制作された冊子をいかに多くの人に見て、知ってもらおうかということが課題であると感じていたが、今回、中学生と関わり、伝える機会をもたれたことは、多くの世代にその情報を知ってもらおうきっかけとなっただけでなく、世代間交流を進めることにもつながったのではないかと考えている。今後の活動に広がり期待したい。</p>
